

# 博物館だより



No.96

平成26年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666

## 博物館友の会

### 会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、講演会やバスハイク・歴史たんけんウォークなどさまざまなイベントや学習会を行っています。  
関心のある方なら、ごなためもお気軽に参加いただけます。ぜひ、ご入会下さい。

#### ♪入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください

#### ♪年会費

個人会員 3000円  
家族会員 1名2000円

#### ♪お問い合わせ先

みやこ町歴史民俗博物館内  
友の会事務局  
Tel 0930-33-4666

## 4月期歴史講座

### 開催日のご案内

#### 【漢詩紀行講座】

4月5日(土) 9時30分

#### 【古文書講座】

4月12日(土) 10時00分

#### 【古典かな講座】

4月19日(土) 9時30分

#### 【金曜古文書講座】

4月25日(金) 10時00分

#### 【みやこ学講座】

4月26日(土) 10時00分

歴史を学ぼう!文化にふれよう!

## 歴史講座受講生募集!

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩紀行講座」「古典かな講座」「古文書講座」「金曜古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。受講希望の方はお気軽に博物館までお問い合わせください(継続して受講を希望される方の申込については不要です)。

なお、各講座では毎回資料代として200円が必要ですのでご了承ください。

### 講座の内容

#### 【漢詩紀行講座】

○講師 宮原加代子先生

○内容 主に九州の旧蹟で詠まれた漢詩文を鑑賞しながら、漢詩の基礎を学びます。また、漢詩文ならではの対句表現、佳句の手習いも行いますので用紙・筆記用具をご持参ください。初心者の方も大歓迎です。

○実施日 毎月第1土曜日  
午前9時30分

#### 【古典かな講座】

○講師 宮原加代子先生

○内容 こころを平易にうたった歌人・西行法師の「御裳濯河歌合」をテキストに鑑賞・手習いします。用紙・筆記用具をご持参下さい。

○実施日 毎月第3土曜日  
午前9時30分

#### 【古文書講座】

○講師 当館学芸員

○内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関わる古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。

○実施日 毎月第2土曜日  
午前10時00分

#### 【金曜古文書講座】

○講師 当館学芸員

○内容 博物館に収蔵される古文書を主なテキストとして、江戸時代後期以降の豊前地域をめぐる行政・生活・文化に関するさまざまな情報を読み解きます。

○実施日 毎月第4金曜日  
午前10時00分

#### 【みやこ学講座】

○講師 当館学芸員

○内容 郷土の歴史について講義はもちろん、実際に現地(遺跡や博物館など)を歩き・見触れる体験型学習を行います。今年度は黒田官兵衛と宇都宮氏ゆかりの話題を交えながら関連学習を進めます。

○実施日 毎月第4土曜日  
座学は  
午前10時00分

見学会はその都度連絡します。

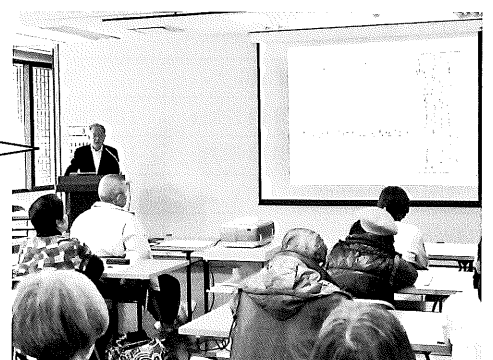
### 3月の業務日誌から

3月16日(日)、館内研修室で歴史文化カレッジ最終講が開かれました。福岡県文化財保護指導委員 牛嶋英俊氏に「道に歴史あり」のテーマでお話いただきました

企画展「発掘されたみやこ町2014」が3月30日(日)終了しました。みやこ町誕生後の発掘成果の集大成でしたが、見慣れた場所の新発見に小さな驚きを感じてもらえたようです



▲企画展「発掘されたみやこ町2014」



▲牛嶋英俊先生講演会(3/16)

みやこの歴史発見伝 73

古文書が語る村の生活と文化 15

# 地震の記録

豊前地方の安政地震

家老・嶋村志津摩の触書

左に掲げた史料1は、嘉永七年(安政元年・一八五四)十一月に、小倉小笠原藩家老・嶋村志津摩の指示で、領内全体に流された触書です。内容は「このところ、たびたび地震が起きていますが、家を空け、屋外に逃げる時は、とくに火の元には念を入れるように」つまり、かならず火を消してから逃げよう、というものでした。

安政南海地震と豊予地震

嘉永七年十一月五日、午後四時半過ぎ、北部九州で大きな地震がありました。地震の比較的少ない当地方では「古来未曾有」、「人々誠ニ恐怖」する揺れでした(『中村平左衛門日記』第八巻・北九州市立歴史博物館)。小倉藩領の被害の実態は未詳ですが、城下町では、建物の損壊等、相当な被害が出たようです(同前史料)。

【史料1】

此節度々地震致し候付  
而者家を明、家外二出候  
もの可有之ニ付、右様之  
節者別而火元入念可申事  
寅十一月

【解説文】

此節度々地震致し候付  
而者家を明、家外二出候  
もの可有之ニ付、右様之  
節者別而火元入念可申事  
寅十一月

別紙之趣嶋志津摩殿  
被 仰渡候ニ付、此旨連々  
御郡中へ可被相触候、以上  
十一月七日 三宅円司  
大庄屋中  
(長井手永大庄屋  
嘉永七年日記十一月九日条)

当時の人が震源や規模など知る術は勿論ありませんでしたが、この地震は、のちに「安政南海地震」と呼ばれる、現和歌山県南方沖を震源とする巨大地震でした。そして、この地震は、前日の十一月四日に駿河湾一帯を震源域として起きた「安政東海地震」に連動した、いわゆる「南海トラフ地震」だったのです。

さらに、安政南海地震が起きてからおよそ四〇時間後の十一月七日午前九時三〇分頃、今度は豊予海峡(大分市の関崎と愛媛県伊方町の佐田岬によつてはさまれる海峡)を震源とする地震が九州・四国・中国地方を襲いました(豊予地震)。十一月五日の余震が続くなかで起きた地震ですが、震源は全く異なるものでした。

史料1の触書は、こういった状況の中で出されたものでした。  
**豊前地方における安政期の地震**  
嘉永七年は十一月二十七日に「安政」と改元されましたが、この安政年間には東海・南海地震をはじめ、各地で数多くの地震が連発します。江戸で死者約一万人とされる「安政江戸地震」が起こるのは、東海・南海地震の翌年、安政二年(一八五五)十月二日です。  
下段の史料2〜5は、安政南海地震、豊予地震以外で、長井手永(現みやこ町犀川地区のうち一六ヶ村で構成された行政区)の大

【史料2】安政四年閏五月十七日

(震源：山口県北部)

十七日

曇天、四ツ時分地震  
九ツ時分ち雨

【史料3】安政四年八月二十五日

(震源：安芸灘)

廿五日

同、今朝五ツ過地震強し

【史料4】安政五年十二月二日

(震源：島根県沖)

二日

雨天、今夕ち度々地震

【史料5】安政六年九月九日

(震源：島根県西部)

九日

朝之内潤、五ツ過地震  
小雨打降、今晚降雨

※史料はいずれも長井手永大庄屋日記

庄屋の日記に記された地震の記録です。下表には、それら豊前地方で揺れが感じられた安政期の地震をまとめました。

当地方は、比較的地震の少ない地域ですが、決して、地震の無い地域ではありません。備えることは、かならず必要です。

(川本英紀)

## 豊前地方における安政期の地震

発生年月日(旧暦)	西暦	震源(現地名)	推定マグニチュード	当地方推定震度	備考(地震の名称)
嘉永7年(安政元年)11月5日	1854年12月24日	和歌山県南方沖	8.4程度	5弱	安政南海地震
嘉永7年(安政元年)11月7日	1854年12月26日	豊後水道(豊予海峡)	7.4程度	5強	豊予地震
安政4年閏5月17日	1857年7月8日	山口県北部	6.0程度	(未詳)	
安政4年8月25日	1857年10月12日	安芸灘	7.3程度	(未詳)	
安政5年12月2日	1859年1月5日	島根県沖	6.5程度	(未詳)	
安政6年9月9日	1859年10月4日	島根県西部	6.4程度	(未詳)	

【参考文献等】松浦律子・中村操・茅野一郎・唐鎌郁夫「江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業-7年間の成果中間報告-」(『歴史地震』21号・2006)、同(茅野氏除く)「江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業-安政五・六年石見の地震等10地震について-」(同24号・2009)、古地震.net他